

作曲に挑戦！～下校時刻15分前の放送後に流す音楽をつくろう～

本題材で育成する資質・能力

課題発見・解決力

主体性・積極性

自己理解・自らへの自信

1 題材について**(1) 生徒観**

9月初めに第1学年2組（男子19名，女子19名 計38名）の生徒を対象にアンケートを行い，創作の授業に対する意識についての実態把握を行った。結果は次の通りである。

○今までに，授業で作曲（音楽づくり）をしたことがありますか。

作曲したことがある 23名

作曲したことがない 15名

○作曲を試してみたいですか。

作曲を試してみたい 24名（男子8名，女子16名）

（試してみたい理由）

楽しそう・面白そう・音楽を聴くのが好きなので自分でも作ってみたい・オリジナルの自分の曲を作ってみたい・できたときの達成感がありそう・普段考えているリズムや旋律を実際に聴くことができる・聴いている人に元気を与えたり，幸せな気分になれる・授業で習ったことを生かせる・

作曲を試してみたくない 14名（男子12名，女子2名）

（試してみたくない理由）

大変そう・面倒くさい・方法が分からない・苦手・難しそう

この結果から，半数以上の60%の生徒がこれまでに作曲（音楽づくり）をしたことがあることが分かった。また，作曲を試してみたいと思っている生徒の割合は63%であったが，男女別に見てみると，女子が19名中16名（女子の84%），男子が19名中8名（男子の42%）と，男女でかなりの偏りが見られた。さらに，作曲を試してみたくないと回答した生徒のうち，85%が男子である。その中には，作曲の経験があるものの，作曲をしたくないと答えた生徒もおり，「難しい」「方法が分からない」等の理由を挙げている。

このように男女間で創作に対する意識や能力の差が見られることから，音符や休符の知識を定着させ，記譜する際のワークシートや授業形態を工夫する等の手立てが必要であると考ええる。

(2) 題材観

本題材は，中学校学習指導要領音楽第1学年「A表現」（3）創作イ「表現したいイメージをもち，音素材の特徴を生かし，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫しながら音楽をつくること。」及び〔共通事項〕アの「リズム，速度，旋律，構成」を取り扱うものである。

1学期に，音符・休符の名前や拍数について小学校の復習をしたことから，今後は，簡単な音符や休符を用いて旋律を創作することを通して，音楽の基礎的な知識を定着させていきたいと考える。また，創作は，音のつながり方を試しながら短い旋律をつくったり，音素材を選び，まとまりを工夫して音楽をつくったりする活動であるため，思考力を育成するために有効な学習活動であると考え。この活動を通して，音や音楽のよさや美しさなどを感じ取り，音楽への関心を高め，考えを練ることで，協働して音楽活動することの楽しさや喜びを味わわせたい。

また，1学期には「主人は冷たい土の中に」「エーデルワイス」の歌唱を通して，「二部形式とは」及び「それが生み出す効果」について学習した。そのため，二部形式の「反復」「変化」「対照」といったまとまりのある旋律を創作することを通して，よりその効果が実感できると思い，本題材を設定した。

(3) 指導観

中学校に入学して初めての創作活動になるため、生徒にとってイメージをもちやすい学校生活における音楽、すなわち「下校時刻 15 分前」に流す 8 小節の短い旋律を作曲する活動を行う。

そのために、単元の初めに「店の閉店時に流れる音楽」を聴かせて、どのような感じ・雰囲気の音楽か、またその雰囲気を醸し出すためにどのような工夫がされているか、しっかり知覚・感受させ、創作活動に生かす活動を取り入れていく。

創作する際には、イメージにあった表現をするために、リズムや速度、旋律といった音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気を感じながら、創作に取り組ませることとする。

また、アンケート結果より「作曲」に苦手意識を持っている生徒も少なくないことから、用いる音符や休符、拍子を限定し、同じ条件の中でイメージにあった曲をつくらせる。そして、個人での創作が難しいと感じている男子の生徒が多いため、男女のペアで創作活動をさせることで、「できそうだ」という意欲と「創作できた」という喜びを実感させる活動にしていきたい。

創作の途中段階では、ペアから 4 人グループ（ペア×2）になり、お互いの曲を聴き合い、アドバイスしながら試行錯誤を繰り返し、よりイメージにあった音楽をつくっていく活動過程にしていく。そして、記譜の苦手な生徒も、音色や速度等が書き込めるようなワークシートを活用し、記譜させていく。

最終的には、完成した作品を実際に下校時刻の放送に流すことで、作品を創作した必然性を感じ、自分が創作した音楽が流れる喜びや達成感を味わわせたいと考える。

2 題材の目標

- リズムや速度、旋律などの特徴や反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かした旋律をつくる学習に主体的に取り組む。
- リズムや速度、旋律などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、二部形式の反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かすなどして音楽表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつ。
- リズムや速度、旋律などの特徴や反復、変化、対照などの構成を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて、旋律をつくる。

3 題材の評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能
題材の評価規準	①リズムや速度、旋律などの特徴に関心をもち、それらを生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。 ②反復や変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かして旋律創作をするために意欲的に取り組もうとしている。	①リズムや速度、旋律などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽表現を工夫して旋律を創作することに思いや意図をもっている。 ②知覚・感受したことをもとに、音楽で表現したいイメージをもち、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫してどのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	①リズムや速度、旋律などの特徴を生かした音楽をつくるために必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。 ②反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。

4 本題材において育成しようとする資質能力とのかかわり

「間違いをおそれず、自分の考えを相手に伝え、前向きに活動する生徒」（ゴールの生徒の姿）

【スキル】課題発見・解決力

①表現したいイメージに合った曲を作るために、音楽を形づくっている要素の特徴を感じ取り、工夫しながら創作活動を行っている。

【意欲・態度】主体性・積極性

①他者と意見交換しながら答えのない問題に取り組む意欲をもつ。

【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信

①解決された内容について、相手意識をもって、自分の考えを相手に伝える。

5 指導と評価の計画（全5時間）

時間	学 習 内 容	評 価			
		関	創	技	【資質・能力】 評価規準（○） （評価方法）
1	情報の収集 ○「電車が到着した時の音楽」を聴き、 いっどこで流れている音楽か考える。 →生活の中で「合図」として使われている音楽であることを知る。 ○生活の中で「合図」として流れている音楽について、アンケートに記入してあったものを紹介する。 ・夕方の時刻を知らせる音楽 ・洗濯機や炊飯器から流れる音楽 ・電話やメールの着信音 ・目覚ましの音楽 ○「店の閉店時に流れる音楽」を聴き、 どのような感じ・雰囲気の音楽か、 また、その雰囲気を醸し出すために どんな工夫がされているか、音楽を 形づくっている要素から考える。 →音楽が、ただ「合図」として使われているだけでなく、その場の雰囲気をつくり、そこにいる人の気持ちや気分を変化させることを知る。 ○学校生活の中で、音楽を流すことで 雰囲気を変え、より意識して行動することができる場面はないか、考える。		○		○イ①リズムや速度、旋律などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫して旋律を創作することに思いや意図をもっている。（観察・ワークシート）

2	課題の設定 ○下校時刻 15 分前の放送後に流す音楽を作曲することを知る。 ○今後の見通しをもつ。 ⇒条件の提示 ① 4 分の 4 拍子 8 小節 ハ長調 ②構成について →A,A',B,A'（二部形式） ③楽器について →鍵盤ハーモニカやキーボード等，視覚的に旋律の高低が分かりやすく，誰でも音が出る楽器を使用 ④旋律について→単旋律 ⑤記譜について ⑥ペアで作曲 ○どのような感じ・雰囲気の音楽がふさわしいか考える。 ○教師の創作した曲を聴く。 整理・分析 ○イメージした感じや雰囲気を出すために，どのような「リズム」「速度」「旋律」にすればよいか，ペアで考えながら，1～2 小節目を作曲する。				○ア①リズムや速度，旋律などの特徴に関心をもち，それらを生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。（観察） ○ウ①リズムや速度，旋律などの特徴を生かした音楽をつくるために必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。（観察・ワークシート）
3	○3～4 小節目を作曲する。 ○1～4 小節まで作曲したものを，ペアペアで聴き合って，お互いにアドバイスする。 →聴くポイント（ペアで工夫したところ）を事前に提示する。	○ ○			○ア②反復や変化，対照などの構成に関心をもち，それらを生かして旋律創作をすることに意欲的に取り組もうとしている。（観察） ○イ②知覚・感受したことをもとに，音楽で表現したいイメージをもち，反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを工夫してどのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（ワークシート） 【意欲・態度】主体性・積極性 他者と意見交換しながら答えのない問題に取り組む意欲をもつ。（観察・ワークシート）

4	○ 5～6小節目を作曲する。 ○ 全体を演奏して、ペアで見直し・修正する。 ○ ペアペアで聴き合い、お互いにアドバイスする。 ○ 記譜を清書する。 ○ 工夫した点をワークシートに記入する。 ○ 次時の発表の準備をする。			○	○ ウ②反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。(観察・ワークシート) 【スキル】課題発見・解決力 表現したいイメージに合った曲を作るために、音楽を形づくっている要素の特徴を感じ取り，工夫しながら創作活動を行っている。(観察・ワークシート)
5	まとめ・創造・表現 ふりかえり ○ グループ，学級全体の前で，作曲した曲を発表し合う。 ○ 鑑賞した感想を書く。 ○ 個人で単元の振り返りを行う。			○	【価値観・倫理観】自己理解・自らへの自信 解決された内容について，相手意識をもって，自分の考えを相手に伝える。(観察) ○ ウ②反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。(観察・ワークシート)

6 作品のループリック

学校生活における「下校時刻 15 分前」に流す 8 小節の旋律を作曲しよう。	
評価（ループリック）	
4	イメージにあった，二部形式によるまとまりのある旋律を創作している。
3	二部形式によるまとまりのある旋律を創作している。
2	二部形式になっていないが，8 小節の旋律を創作している。
1	8 小節の旋律を創作していない。

7 本時の学習（1／5時間）

(1) 本時の目標

音楽を形づくっている要素（リズム、速度、旋律）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を、曲のイメージと関わらせながら感受することができる。

(2) 本時の展開例

授業システム	学びのサイクル	学習内容	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
① ② ③	つかむ・見通す	○「電車が到着した時の音楽」を聴く。 ○生活の中で「合図」として流れている音楽を紹介する。 ○それぞれが「合図」の役割を果たすために、どのような雰囲気の音楽になっているか、考える。 ○めあてを知る。	・いつ、どこで流れている音楽か答えさせる。 ・事前にアンケートをとり、記入してあったものを紹介する。 ◆「電車が到着した時の音楽」は「明るくて、さわやかな感じ」といった例を示す。	
めあて：曲のイメージと音楽を形づくっている要素とを関わらせながら鑑賞しよう。				
④		○「店の閉店時に流れる音楽」を聴く。 ○どのような感じ、雰囲気の音楽かワークシートに記入する。		
⑤	考える	○雰囲気を醸し出すための工夫点を見つけ、ワークシートに記入する。	・雰囲気を出すために、どのような工夫をしているか、音楽を形づくっている要素（リズム、速度、旋律）から考えさせる。 ・音楽が、ただ「合図」として使われているだけでなく、その場の雰囲気をつくり、そこにいる人の気持ちや気分を変化させることに気付かせる。	○イ①リズムや速度、旋律などを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、音楽表現を工夫して旋律を創作することに思いや意図をもっている。（観察・ワークシート）
⑥	深める	○4人グループで意見交流をする。 ○グループごとに発表し、全体でまとめる。		

⑦	まとめる	まとめ：店の閉店の音楽は、ゆっくりとした速度で、のぼす音がたくさん使われている。だから帰りたくなるような雰囲気が出るのだと思った。「合図」として使われている音楽は、それぞれに合った雰囲気を醸し出すために、リズムや速度、旋律を工夫していることがわかった。	
⑧	ふりかえる	○学校生活の中で、新しく、「合図」として流したらよい音楽を考える。	・次時では、出てきたものから1つ選び、創作していくことを伝える。

8 準備物

CD, ワークシート

9 板書計画

○生活の中で、「合図」として使われている音楽

音楽の感じ・雰囲気

- ・電車が到着した時の音楽 → 明るくてさわやかな音楽
- ・夕方の時刻を知らせる音楽 → 穏やかな音楽
- ・電話やメールの着信音 → 明るくて元気のいい音楽
- ・目覚ましの音楽 → 力強い激しい音楽 明るくてさわやかな音楽

めあて 曲のイメージと音楽を形づくっている要素とを関わらせながら鑑賞しよう。

閉店の時に流れる音楽「別れのワルツ」		
イメージ：のんびり・穏やか・ゆるやか		
リズム	音符の種類は？	長い音符
速度	曲の速さが速いか遅いか	ゆっくり 遅い
旋律	音の高さの変化 音が高いか低いか	高い音から低い音への変化がなだらかで安心する感じ

今日のポイント ただ「合図」として使われているだけでなく、その場の雰囲気をつくり、そこにいる人の気持ちや気分を変化させる音楽である。

まとめ 店の閉店の音楽は、ゆっくりとした速度で、のぼす音がたくさん使われている。だから帰りたくなるような雰囲気が出るのだと思った。「合図」として使われている音楽は、それぞれに合った雰囲気を醸し出すために、リズムや速度、旋律を工夫していることがわかった。

◎学校生活の中で、新たに「合図」として流したらよい音楽を考えてみよう。

7 本時の学習（2／5時間）

(1) 本時の目標

音楽を形づくっている要素（リズム、速度、旋律）を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、思いや意図をもって表現したい音楽をつくることができる。

(2) 本時の展開例

授業システム	学びのサイクル	学習内容	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
① ② ③ ④	つかむ・見通す	○下校時刻 15 分前に流す音楽を作曲することを知る。	・前時のワークシートから、音楽を流すことのメリットを紹介する。	
		めあて：リズム、速度、旋律などの特徴を感じ取り、思いや意図をもってイメージに合った曲をつくろう。		
⑤	考える	○作曲するときの条件を知り、今後の見通しをもつ。 ○どのような感じ・雰囲気の音楽がふさわしいか、考える。	・「店の閉店時に流れる音楽」と似ていることに気付かせる。 ・楽譜を掲示しながら形式の説明をし、確認させる。	
		○教師の創作した曲を聴き、二部形式について理解する。 ○イメージした感じや雰囲気を出すために、どのような「リズム」「速度」「旋律」にすればよいか、ポイントを確認する。	・前時に学習したワークシートを確認させる。 ・鍵盤ハーモニカやキーボード等、視覚的に旋律の高低が分かり、誰でも音が出る楽器を使用することを伝える。	
⑥	深める	○記譜の方法を知る。 ○ペアで 1 ～ 2 小節目を作曲する。	・曲の初めと最後の音を「ド」から始めさせる。 ・1 ～ 2 小節は、「動機」の部分であり、大切な旋律であることを伝える。 ・リズム譜をまず考え、その次に旋律を考えさせる。 ・2 小節目は「続く感じ」の旋律にさせる。 ◆実際にピアノで音を出して音の雰囲気を感じ取らせる。 ・色々な高さの音を出しながら、試行錯誤させる。 ◆進まない時は、まずは歌ってみて、それを図形等で書き留めるようにさせる。	○ア①リズムや速度、旋律などの特徴に関心をもち、それらを生かした旋律創作に意欲的に取り組もうとしている。（観察） ○ウ①リズムや速度、旋律などの特徴を生かした音楽をつくるために必要な技能を身に付けて旋律をつくっている。（観察・ワークシート）
		○いくつかのペアが発表する。	・工夫した点を発表させる。	

⑦	まとめる	まとめ：2分音符を使うと，下校の音楽らしくなってきた。前に聴いた閉店の音楽のリズム，速度，旋律などの特徴をいかしてつくと，イメージに合った曲をつくることができた。	
⑧	ふりかえる	○振り返りをする。	・次時は，3～4小節目を作曲することを伝える。

8 準備物

ワークシート，楽器

9 板書計画

めあて	リズム，速度，旋律などの特徴を感じ取り，思いや意図をもってイメージに合った曲をつくろう。 （1～2小節目）
お題	下校時刻 15 分前の音楽をつくろう！
どんな雰囲気音楽がいいだろう？ ○ゆったりした感じ 店の閉店時の音楽と ○穏やかな感じ 似ているかも！？	
教師の作品	
まとめ	2分音符を使うと，下校の音楽らしくなってきた。前に聴いた閉店の音楽のリズム，速度，旋律などの特徴をいかしてつくと，イメージに合った曲をつくることができた。

7 本時の学習（3／5時間）

(1) 本時の目標

リズムや速度、旋律などの特徴や二部形式の反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりに関心を持ち、それらを生かし音楽表現を工夫して、音楽をつくる学習に主体的に取り組むことができる。

(2) 本時の展開例

授業システム	学びのサイクル	学習内容	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
① ② ③ ④	つかむ・見通す	○二部形式の復習をする。 ○めあてを知る。	・1学期に学習した「主人は冷たい土の中に」「エーデルワイス」を思い出させる。 ◆二部形式を説明した拡大図を黒板に貼る。	
めあて：二部形式の構成や全体のまとまりを感じ取りながら、イメージに合った曲をつくろう。				
⑤	考える	○3～4小節を作曲する。	・3小節目は、1小節目と同じ旋律（反復）、また4小節目は、「終わる感じ」の旋律にさせる（変化）。 ・色々な高さの音を出しながら、試行錯誤させる。	○ア②反復や変化、対照などの構成に関心を持ち、それらを生かして旋律創作することに取り組もうとしている。（観察）
⑥	深める	○1～4小節を4人グループ（ペア×2）で聴き合い、お互いにアドバイスする。 ○いくつかのグループが発表する。	・聴くポイント まず、ペアで工夫したところを伝える。その後、 ①4分の4拍子になっているか ②「動機」と「反復・変化」の関係になっているか ③「続く感じ」「終わる感じ」になっているか ④「速度」「リズム」「旋律」はイメージに合っているか 確認する。 ・「できていない」だけで終わらせず、「こうしてみたら？」のアイディアをお互いに出し合うようにさせる。 ・工夫した点を発表させる。	○イ②知覚・感受したことをもとに、音楽で表現したいイメージを持ち、反復、変化、対照などの構成や全体のまとまりを工夫してどのような音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。（ワークシート） ★【意欲・態度】主体性・積極性 他者と意見交換しながら答えのない問題に取り組む意欲をもつ。（観察・ワークシート）

⑦	まとめる	まとめ：二部形式でつくっていったら、まとまった感じになった。二部形式の構成や全体のまとまりを考えて作ると、まとまった感じも出るし、イメージに合った曲になると思った。	
⑧	ふりかえる	○振り返りをする。	・次時は、5～6小節目を作曲することを伝える。

8 準備物

ワークシート，楽器

9 板書計画

めあて

二部形式の構成や全体のまとまりを感じ取りながら，イメージに合った曲をつくろう。（3～4小節）

二部形式とは

a

続く感じ↓

a'

終わる感じ↓

b

続く感じ↓

a'

終わる感じ↓

動機

反復

変化

対照

反復

変化

○4人グループで聴き合うときのポイント

まずは工夫したところを伝えよう。そして，

①4分の4拍子の曲になっているか。

②1～2小節目「動機の部分」，3～4小節目「反復・変化の部分」になっているか。

③2小節目の終わりは「続く感じ」，4小節目の終わりは「終わる感じ」になっているか。

④リズムや旋律，速度はイメージにあっているか。

↓

「こうしてみたら？」のアドバイスをお互いに行ってみよう。

まとめ

二部形式でつくっていったら、まとまった感じになった。二部形式の構成や全体のまとまりを考えて作ると、まとまった感じも出るし、イメージに合った曲になると思った。

7 本時の学習（4／5時間）

(1) 本時の目標

二部形式の反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりに関心をもち，それらを生かし音楽表現を工夫して音楽をつくる学習に主体的に取り組むことができる。

(2) 本時の展開例

授業システム	学びのサイクル	学習内容	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
① ② ③ ④	つかむ・見通す	○二部形式を理解する。 ○めあてを知る。		
めあて：二部形式の構成や全体のまとまりを感じ取りながら，イメージに合った曲をつくろう。				
⑤	考える	○5～6小節を作曲する。	・5～6小節目は「対照」の部分になりため，山場のイメージをもって考えさせる。 ・6小節目は「続く感じ」の旋律にさせる。 ◆実際にピアノで音を出してみ，どの音にしたらよいか考えさせる。 ・色々な高さの音を出しながら，試行錯誤させる。 ・聴くポイント	○ウ②反復，変化，対照などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。（観察・ワークシート）
⑥	深める	○1～4小節を4人グループ（ペア×2）で聴き合い，お互いにアドバイスする。	①4分の4拍子になっているか ②「対照」になっているか ③「続く感じ」になっているか ④「速度」「リズム」「旋律」はイメージに合っているか ⑤山場になっているか ・「できていない」だけで終わらせず，「こうしてみたら？」のアイディアをお互いに出し合うようにさせる。 ・工夫した点を発表させる。	★【スキル】課題発見・解決力 表現したいイメージに合った曲を作るために，音楽を形づくっている要素の特徴を感じ取り，工夫しながら創作活動を行っている。（観察・ワークシート）
		○いくつかのグループが発表する。		

⑦	まとめる ふりかえる	まとめ：二部形式の中でも山場を考えると、曲に変化が出てイメージに合ってきた。二部形式だけでなく、反復や変化、対照を考えると、全体のまとまりが出てきて、イメージに合った曲になっていくと思った。		
⑧		○作曲したものを清書する。	・工夫した点をワークシートに記入させる。 ・次時は、発表会であることを伝える。	

8 準備物

ワークシート，楽器

9 板書計画

めあて 二部形式の構成や全体のまとまりを感じ取りながら、イメージに合った曲をつくろう。（5～6小節）

4人グループで聴き合うときのポイント
 ① 4分の4拍子になっているか
 ② 「対照」（全く違う旋律）になっているか
 ③ 「続く感じ」になっているか
 ④ 「速度」や「リズム」「旋律」はイメージに合っているか
 ⑤ 山場になっているか

↓

 「こうしてみたら？」のアドバイスをお互いに行ってみよう。

まとめ 二部形式の中でも山場を考えると、曲に変化が出てイメージに合ってきた。二部形式だけでなく、反復や変化、対照を考えると、全体のまとまりが出てきて、イメージに合った曲になっていくと思った。

7 本時の学習（5／5時間）

(1) 本時の目標

創作した曲を紹介し，互いに聴き合う活動を通して，曲のイメージや工夫した点を伝えと共に，友達作品のよさに気付かせる。

(2) 本時の展開例

授業システム	学びのサイクル	学習内容	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科の指導事項（○） 資質・能力（★） （評価方法）
① ② ③ ④	つかむ・見通す	○めあてを知る。		
		めあて：作曲した作品をみんなに紹介しよう。		
⑤	考える	○ペアで練習をする。	・曲のイメージや工夫した点を伝える人，演奏する人等，役割分担させる。	○ウ②反復，変化などの構成や全体のまとまりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。（観察・ワークシート）
⑥	深める	○全体で作品を紹介する。	・曲のイメージと工夫した点を発表した後に，演奏させる。	★【価値観・倫理観】 自己理解・自らへの自信 解決された内容について，相手意識をもって，自分の考えを相手に伝える。（観察・ワークシート）
		○ワークシートに書き込み，全体で交流する。	・どんな感じがしたか，なぜそう感じたのか，「リズム」「速度」「旋律」を理由に具体的に書かせる。 ◆ 3つの要素について難しい場合は，1つ，または2つについて書かせる。 ・どんなところが良かったか，印象に残ったか，記入させる。	
⑦	まとめる	まとめ：他のグループから「寂しさが感じられるようなリズムになっている」と言ってもらった。自分たちが創作した曲に自信がもてた。また，友達作品は，旋律の盛り上がりがあるようにつくられていて，自分たちにはない工夫があるなと思った。		
⑧	ふりかえる	○学習を終えて，感想を書く。	・創作活動を終えて，感じたことをワークシートに記入させる。	

8 準備物

ワークシート，楽器

9 板書計画

めあて 作曲した作品をみんなに紹介しよう。

発表の方法（1 ペア 2 分）

①曲のイメージと工夫した点を伝える

②作品の演奏

→聴いた人は感想を記入

まとめ 他のグループから「寂しさが感じられるようなリズムになっている」と言ってもらった。自分たちが創作した曲に自信がもてた。また，友達作品は，旋律の盛り上がりがあるようにつくられていて，自分たちにはない工夫があるなと思った。